

発言通告書の要旨(一般質問)

令和8年第1回定例会

| 質問日 | 質問順 | 議席/氏名 | 件名 | 要旨 |
|-------------|-----|------------|---|---|
| 3/11 (水) | 1 | 15 浜口恭行 | 1、水産業振興について | <p>養殖カキの大量へい死は、瀬戸内の大きな問題となり、本市も近隣市町や国や県とも連携し、支援をすることになったが、原因究明は進んでいるのか。 本市の水産業の支援と産地維持、豊かな瀬戸内海、第1次産業の漁業者を守るべく、積極的な支援の内容を聞きたい。</p> |
| | | | 2、当初予算の概要について | <p>限られた財源の中、骨格予算であるのに、過去3番目の一般会計予算規模となっている。 依然として経常収支比率は前年度同値の98.2%となり、本市の財政構造は硬直化している。 山下市長は現在の財政の硬直化をどのように考えているのか。 そもそも経常収支比率が危険水域である主因は何と分析しているのか。 経常収支比率を改善する具体的な施策は考えているのかを聞く。</p> |
| | | | 3、公共交通の課題について | <p>みとよ交通システム事業団(MiLAIS)や民間事業者と連携し、本市の公共交通は市民のためになっているのか。持続可能な公共交通ネットワークを構築できているのか。 自動運転も含めて、真の市民の移動手段として公共交通が利活用されているのかを聞く。</p> |
| | | | 4、3本柱の一つ「健康」について | <p>重要な施策の3本柱の一つである「健康」について、本市の1人暮らしの高齢者の増加、市民病院の利用減、地域コミュニティの衰退など幸福を実感するための「健康」に繋がっているのか、できることから早急に取り組むべきではないか。</p> |
| | 2 | 3 眞鍋範子 | 1、子育て・子育て支援施策について | <p>みとよすくすく子育てサポートプランⅡの庁内横断的な体制の構築や地域での子育て支援を進めた上で作成された「三豊市こども計画」において、「三豊市全体でこどもや子育て家庭を支え、地域ぐるみで子育てを支援する環境を整え、誰もが笑顔で健やかに成長できる『こどもまんなか』のまちづくりをめざす」とあるが、こどもまんなかのまちづくりとは具体的にどういったものか。また、地域ぐるみで子育てをする環境の具体的な取り組み・施策について伺う。</p> |
| | | | 2、学校に行けない、また学校に登校できても教室に入ることが難しい児童生徒の対応について | <p>(1)三豊市における現在の対策について伺う。 (2)文部科学省が不登校対策「COCOLOプラン」の一環として、その設置を推進している「校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム)」の三豊市の設置現状及び成果・問題点について伺う。 (3)学校に行けなくなる前の予防策や、学校に通い続けることができるための支援策について伺う。</p> |

発言通告書の要旨(一般質問)

令和8年第1回定例会

| 質問日 | 質問順 | 議席/氏名 | 件名 | 要旨 |
|-------------|-------------|-----------|--------------------------------------|---|
| 3/11 (水) | 3 | 6 青井和樹 | 1、食料自給率向上、耕作地増加のために三豊市が独自に取り組む施策について | (1)山下市長は令和7年第3回定例会にて食料自給率・耕作放棄地の問題について、国や県を待っている時間ばかりがたつので三豊市独自で取り組んでいかなければいけない旨の発言をされた。現時点での具体策の有無について伺う。 (2)農家の数は減る一方の現状を踏まえ、非農家の力も借りながら、三豊市独自の新しい取り組みとして地域支援型農業の導入を検討してはどうか。 |
| | | | 2、就学前教育・保育の現場における子どもの最善の利益の尊重について | 特別な支援を要する子どもを同時に3名も担当し、極度の緊張状態での勤務を強いられている職員がいる。安全面はもちろんのこと、子どもひとりひとりに合った支援ができる状況にはない。 児童の権利に関する条約第3条にある【子どもの最善の利益の尊重】のため、早急に改善すべき問題であるがどう考えているか。 |
| | | | 3、職員間のパワーハラスメント対策強化の具体的進捗について | 市民が安心して行政サービスを受けるためには、職員が最大限の力を発揮し今日も明日も心身ともに健康で、未来に希望を持って働くことが出来る三豊市であることが不可欠である。 しかし未だに職員間のパワーハラスメントが存在する。 状況を一刻も早く改善するため、令和6年第4回定例会での答弁【第三者委員会の在り方の精査、制度的に可能な内容から取り組む】について具体的な進捗を伺う。 |
| | 4 | 2 大平国明 | 1、新設豊中小学校について | ・通学路の整備状況について ・バス通学、保護者の送迎について ・旧小学校跡地の活用について |
| | | | 2、まちづくり推進隊解散後の動きについて | ・推進隊解散後の地域コミュニティの在り方について ・委譲業務の今後の方針や集落支援員制度について ・交付金から補助金への移行となり、補助金申請などの諸手続きについて |
| | 3/12 (木) | 5 | 17 田中達也 | 1、誰一人取り残さない投票環境の整備と、選挙事務のデジタル化による信頼回復 |

発言通告書の要旨(一般質問)

令和8年第1回定例会

| 質問日 | 質問順 | 議席/氏名 | 件名 | 要旨 |
|-------------|-----|------------|---------------------------------------|--|
| 3/12 (木) | 6 | 9 井出喜久美 | 1、詫間駅前駐車場整備について | (1)駅前ロータリーの出口付近について、利用者の安全を確保し、送迎車・バス双方が円滑に通行できるようにするためにも、一定の幅員を確保する必要があると考える。今後の駐車場整備やロータリーの在り方について、三豊市の考えを聞く。 (2)また、仮に今後検討を進めていく場合、現時点で想定している時期の目安などを聞く。 |
| | | | 2、障害者用駐車場の見直しについて | (1)近年、後部スロープ式の福祉車両が増加し、従来の障害者用駐車場では対応が難しいケースがあるという声が現場から寄せられている。こうした実態について、市としても一定の課題認識を持っていると考えるが、市はどう受け止めているのかを聞く。 (2)国のガイドラインでは十分に想定されていない部分もある中で、自治体独自の工夫により、近年の福祉車両に対応した駐車場整備を進めている事例も見受けられる。本市においても、他自治体に先駆けた取り組みとして検討していく余地があると考え、その考えを聞く。 |
| | | | 3、空き家に残置された家財処分の現状と課題、円滑化に向けた取り組みについて | (1)現状把握について (2)課題認識について (3)円滑化に向けた方策について |
| | 7 | 16 詫間政司 | 1、「人材育成から産業集積へ」について | 地域定着戦略と「地域の人事部」の役割及び、地域企業の弱点と「地域の人事部」の機能強化について問う。 (1)将来的にどの分野で産業集積を形成するビジョンを持っているのか。 (2)「地域の人事部」の取り組みとして、高専人材をAI・デジタル人材育成による地域産業戦略の中核に位置付ける考えはあるのか。 (3)人材育成と産業政策を一体的に設計する考えはあるのか。 |
| | | | 2、新設豊中小学校の通学の見守りについて | 統合新設小学校の開校を新年度に控えた豊中地区5小学校の児童の交通安全と見守りの現状は、交通指導員(総務課担当)や三豊交通安全協会(三豊警察署内)、子ども・地域安全見守り隊(少年育成センター)など、複数の関係機関や部署に分かれて設置されており、日々子どもたちの通学の安全を見守っている。令和8年4月から1校に統合され、これまでの通学路が大幅に変更になる中、今一度市民の力を結集することで通学の安全確保につなげられないか。子どもたちの通学を見守る市民活動の詳細と今後の取り組みを問う。 |
| | | | 3、舗装計画について | 合併特例債が適用されなくなるにより、財源確保が厳しくなることは明らかだ。新たな財源確保が必要だと考えられるが次年度からの事業展開について問う。 (1)特例債適用期間の舗装事業予算とこれまでの対象路線の選定 (2)R8年度以降の予算見通しと対象路線の優先順位 (3)新たな財源確保の考え (4)限られた予算の中で最大の効果を得るため、計画的な事業展開が求められるがその対策は。 |

発言通告書の要旨(一般質問)

令和8年第1回定例会

| 質問日 | 質問順 | 議席/氏名 | 件名 | 要旨 |
|-------------|-----|-------------|---------------------------|---|
| 3/12 (木) | 8 | 13 水本真奈美 | 1、手話施策推進法の成立を受けての取り組みについて | 手話施策推進法が、令和7年6月18日に成立した。この法律のポイントは、 ①手話の普及に向けた施策を国や自治体の責務と明記 ②手話の取得や使用に関する合理的配慮が行われる環境を整備する。 ③手話文化の保存と発展 ④施策に必要な財政措置を国に義務付ける。 ⑤児童生徒が手話で教育を受けられるよう、手話技能を持つ教員や通訳者の配置を進める。 ⑥9月23日を手話の日と定める。 等の内容が盛り込まれた。 そこで、 (1)手話の普及の取り組み (2)手話の日に普及イベントの開催 (3)電話リレーサービスを活用した「手話リンク」の導入 について考えを伺う。 |
| | | | 2、放課後児童クラブについて | 令和8年4月より全放課後児童クラブがそれぞれ、民間事業者に業務委託されることとなり、柔軟で新たなサービス、支援が提供されることと期待されるが、その運営や課題について伺う。 |
| | | | 3、公共施設の照明LED化の取り組みについて | 国は2024年12月27日に政令を改正し、すべての一般照明蛍光灯の製造、輸出入を2027年度末で禁止することとなった。今回の規制によりLED照明への交換が急速に進むと見込まれる一方で、更新費用や交換作業の課題も懸念されることから、市民への正しい情報の周知やLED照明への移行支援、本市の市有施設の計画的なLED化が必要と思われる。 (1)廃止対象となる一般照明用蛍光灯とはどのようなものか (2)本市の公共施設や学校施設等の蛍光灯の使用状況 (3)照明LED化の現状と計画について (4)中小企業へのLED照明の移行補助制度の考え について伺う。 |
| | 9 | 12 湯口 新 | 1、市内中小公園の充実について | 少子化のスピードを緩めることは喫緊の課題であり、これまでの子育て支援策の成果を検証し、今後につなげることが非常に大切である。その中でこれまで子育て世代へのアンケート等で何度も充実を求める声が上がっているにも関わらず、市内中小公園の充実に関してはまったくと言っていいほど進んでいない。子育て支援拠点の整備場所が白紙に戻っている今、その子育て支援拠点の整備と共に市内中小公園の整備、拡充も考えて進めるべきではないか。 |
| | | | 2、今後の市民主導型の防災活動について | まちづくり推進隊の多くが解散したが、その中には防災に関する活動も多くあった。今後の南海トラフ巨大地震を想定した地域の防災力の強化には市民参加が欠かせないが、このままではまちづくり推進隊が起点となってようやく動き始めた市民の市民による市民のための防災活動の動きが止まってしまうのではないかと危惧する。今後の対応は。また市民主導の防災キャンプが継続的に開催されているが、開催地の選定が難しいと聞く。対策は。 |
| | | | 3、観光の産業化について | 父母ヶ浜を中心に仁尾の街は変化を見せているがその流れを市内に拡げる取り組みが必要である。観光基本計画を活用した今後の取り組みは。また「観光の産業化」の進捗状況と今後の展望を聞く。 |
| | 10 | 1 篠原一馬 | 1、子育て応援サービス券支給事業について | 本市の子育て応援サービス券は、3万円相当分を支給する大変意義深い制度であり、子育て世帯を応援する本市の姿勢が表れた取り組みである。 その上で、より多くの市民にとって使いやすく、安心して活用できる制度とするために、今後どのような工夫ができるのか、共に考えていくことも大切である。 今後のより良い制度づくりに向け、市としてどのような考えを持っているのかを聞く。 |